

第44回地域連携手帳委員会（略称：手帳委員会）

日時 令和元年 6月20日(木) 13時30分～

会場 新津医療センター病院 大会議室

1. 連携手帳の現状と問題点

- ・コミュニケーション欄、生活経過記録の利用でうまく活用できた事例
ショートステイ利用患者が外来受診。
尿閉にてフォーレ留置が必要となり、事業所での対応が可能かを確認したい場面。
連携手帳持参しており、事業所への確認がスムーズにできた。連携用紙に日々の記載もあり、ショートステイでの様子も確認することが出来た。
- ・コミュニケーション欄、生活経過記録が追加で必要な場合
地域包括支援センターで必要部数を配布している。

2. 連携手帳の発展的利用

人生の最終段階における連携手帳の活用

アドバンス・ケア・プランニングへの利用

○「私からの要望」について内容、利用方法について検討

- ・連携手帳に挟み込む事で、ACPについて考えるきっかけとなるとよい。
- ・治療を希望しない場合の意思表示は項目として載せるか。
- ・具体的な医療処置についての記載はわかりにくいのでは。
- ・本人の意思表示の一つとして手帳が役立つとよい。
- ・手帳利用開始時に、認知症などで本人の意向確認が難しい場合もある。
- ・主にケアマネが配布時に手帳の説明をするが、ACPについても説明が可能か。
→次回、介護サービス関係からも意見を伺いたい。
- ・「私からの要望」の前に手引きとなるものを挟み込むとよいか。
もしもシート（新潟市保健衛生部地域医療推進課より発行）の活用は可能か。
ステーション秋葉より新潟市へ確認を入れる。

→次回引き続き検討へ

3. その他

報告事項なし

次回手帳委員会

令和元年8月8日（木）午後1時30分から

新津医療センター病院大会議室

以上